

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年六月句会(第一五七回)

兼題 「父の日」

催日 令和七年六月二十八日

開催場所 生涯学習センター

出席者 六名

投句者・選句者 七名

(一点句)

父の日は電気ブランと決まりおり	小牧
父の日や父として如何か自省せり	徹心
父の日やラベルに加筆夕餉前	寿歩
地藏さん日焼けクリーム塗りますか	互酬
たゆたって戯る風と浴衣かな	互酬
道の駅メロンの香り堂に満つ	夢心
父の日やあつくてひろい背とんとん	寿歩
手に余る大き紫陽花咲きにけり	夢心
左手は形見の時計鰻喰ふ	玄鳥
たおやかな菖蒲の花の厚きこと	寿歩

(五点句)

●夏木立ベンチの端に文庫本

互酬

選評：公園か、ちよっとした通路の脇か、暑さの

残る時刻なのに、人影のない木蔭のベンチの片隅に、文庫本が置いてあった。忘れたのか、不要なのでおいていったのか。学生か、普通の大人なのか、それとも高齢者なのか。

見つけた人は何を思ったことでしょう。

読者の想像力を刺激する、余韻を多く残す、ある意味では楽しさを何倍も与えてくれる句といえます。

(艸寛記)

(三点句)

父の日や大型漁船出航す	玄鳥
あぢさゐや鍼灸院の多き町	玄鳥

(二点句)

父の日に父と呼ばれる父となり	互酬
梅雨静か何もせずとも夕べかな	艸寛
父の日や考の散骨駿河湾	徹心
老鷺をキョロキョロ探し散歩道	小牧
かたばみや隅に根を張るあさましさ	寿歩
葉がくれの青梅一つ取り残し	小牧
紫陽花が色香り変え迫りくる	艸寛

『句会後記』

今月の兼題は「父の日」で、大半の会員が還暦を過ぎ「考」を偲ぶ句が多かったように感じます。

世の中の感じでは、現在はやはり「母に日」より「父の日」のほうがが、影薄しという状況にあります。そして6月ということもあり「季語」は梅雨に關したものが多かったようで「梅雨寒」「紫陽花」「あぢさゐ」などの句もあり、会員の選句は広くばらけたようでした。

今回の句会から小川さんが俳号を「小武川柳花」に変更されました。これからの新しい作句への挑戦を感じます。尚、今回小川さんは欠席されましたが、暑い日の句会でした。(互酬記)

(投句)

父の日に父の教えを守る日々	艸寛
父の日や家族揃って外食す	夢心
父の日や何事も無く日過ぎぬ	徹心
一面に広がる植田バスの旅	夢心
父笑う今日の吾見て何点ぞ	艸寛
梅雨寒や河原に独り白鼻心	玄鳥
父の日や母のそれより影うすし	徹心
明易し深夜便もonのまま	小牧